

令和6年度岡山大学農学部愛媛県支部同窓会

農学部愛媛県支部同窓会がコロナの感染拡大で4年間中止していましたが、5年ぶりに令和6年5月18日、「リジェール松山」において、来賓に農学部の三木直子植物生態学教授をお迎えして開催されました。5年ぶりの開催でしたが若手の参加が少なく、昭和37年卒から平成10年卒までの参加いただき、総勢17名で盛大に開催され、三木先生からは、岡山大学農場産のアケボノ100%でつくられたお酒「おお岡大」と岡山大学企画「吉備だんご」の差し入れもいただきました。

河野さん（昭和62年卒）の司会進行により開会しました。

はじめに、岡山大学学生歌を藤田純さん（平成4年卒）の音頭で斉唱。

代表世話人の諏訪（昭和52年卒）が、「コロナの感染で世の中が大きく変わり、学生は青春の一時期に学生同士の交流や部活の中止などかわいそうな時期を過ごしましたが、デジタル化の加速など情報ツールの変化等良い面もあり前向きにとらえたい、また、同窓生は農業に関する分野で活躍しており、特に県内農業の担い手不足に対する取り組みに尽力されている姿が見える。」と述べ、岡大の半田山キャンパスで青春のひと時を過ごした幅広い世代の仲間がここに集い交流を深め、本日この時が楽しいひと時となり、この再会を共に喜びたいとあいさつしました。

続いて、10周年を記念して、最高齢参加者の藤井律郎さん（昭和37年卒）に長年の同窓会を盛り上げていただいた感謝の気持ちを添えて記念品の贈呈をしました。藤井さんからは、卒業後オイルショック前に伊藤忠商事でボーリング場建設に取り組み県内でも多数かかわったお話などが紹介されました。

次に、三木教授から「岡大農学部の近況について」、①諸般の事情で農学部長が事務取扱になっているため1名の参加となったこと。②コロナの間学生たちはオンライン授業となり、実験は少人数単位での制限を設けて実施し、農場管理はほとんど教員が担い、出張も自粛となり留学生もゼロの状況が続いたが、現在は回復し、国際農学部プログラムとして東南アジアからの国費留学生の受け入れを開始した。③持続可能な開発目標（SDGs）に沿った大学経営をさらに推し進めるために CLT（ひき板を並べた後、繊維方向が直交するように積層接着した木質系の材料）による木造建築「岡山大学共育共創コモンズ（オークス）」を建設し、SDGsを見据えた幅広い領域で活躍できる人材育成をめざした教育・研究体制を創り上げており、バイオマス産業都市であり CLT の生産で有名な真庭市と農学部がSDGs 産業体験講座を開く取り組みを行っている。等の報告がありました。

恒例の記念撮影は高井さん（平成6年卒）が担当し、力強いポーズでばっちりチーズ。

乾杯は、酒井誠二さん（昭和50年卒）が行い、三木先生へのお礼と最高齢者の藤井さんへの感謝の言葉のあと、岡大農学部の復興を祈念して開宴しました。

今回は久しぶりということで、それぞれが近況報告を行い、同窓生のがんばっている姿に感銘を受けたり笑いがあったりと和やかな時間となりました。また、過去5回の同窓会の写真を会場に掲載し、当時を懐かしむ声が聞かれました。

最後に奈尾さん（昭和62年卒）が閉会の挨拶として、久しぶりに学生時代の下宿を訪ね、大家さんの息子に会い部屋を見せてもらい懐かしかったと岡大の思い出ばなしをして、一本締めでお開きとなりました。

今年も皆さんに感謝、感謝の集いとなりました。

なお、次回開催は、毎年でなく世話人会で検討して開催することとしました。

代表世話人 諏訪 玄